



蔵主人のメンバーと息を合わせて紙すきに取り組む生徒

白石和紙 私の卒業証書

白石市南中の2年生約20人が2月25、26の両日、白石和紙の紙すきに挑戦した。出来上がった和紙は、来春の卒業式で自らが受け取る卒業証書として使われる。

住民レベルで白石和紙の伝承に取り組む市内のまちづくりグループ蔵主人ぐらふとが指導。原料のカシノキの繊維とトロアオイを入れ、水で満たしたすき舟に、すき桁を入れて引き上げ、前後左右に揺らして水分をゆつくり抜いて仕上げた。

南中生 紙すきに挑戦

生徒はカシノキの繊維を木の棒でたたいたり、水の中で繊維をほぐして不純物を取り除いたりする作業も体験した。山田和希さん(14)は「卒業証書をもらう機会は人生で数回しかないので、一番のいい思い出になる。他のまちにない文化が継承されている白石を誇りに思う」と話した。

(2016年3月1日河北新報朝刊)

1 卒業証書に使う白石和紙の紙すきをしたのは、どこの中学校の何年生でしょうか。

() 中学校の () 年生

2 山田さんの思いを読み取りましょう。

①卒業証書の用紙を自分で作ることにについて

()

②白石を誇りに思ったのはなぜか

()

年 組 名前

(小学4年生/社会)